



消化器がん薬物療法の進歩

～分子標的薬と個別化治療の新展開～



- 講師：江崎 泰斗 先生 (国立病院機構 九州がんセンター 臨床研究センター 臨床腫瘍研究部長)
- 日時：平成 26 年 12 月 17 日 (水) 17:30～
- 場所：医学教育図書棟 3 階 第 2 講義室

大腸がん、胃がんに対する薬物療法の進歩が著しい。薬効を予測するバイオマーカーに基づいた個別化治療が実臨床で導入されている。大腸がんにおいては KRAS codon12, 13 の遺伝子変異が抗 EGFR 抗体薬の効果予測につながるとされていたが、さらに他の RAS minor 変異の臨床的有用性も示されるようになった。胃がんにおいても HER2 過剰発現と抗 HER2 抗体薬が知られる。また両がん腫とも、既存および新規の細胞障害性抗がん薬、抗 VEGF 抗体、マルチキナーゼ阻害薬などを適切に組み合わせることにより、さらなる生存期間の延長が期待されている。

本講演では、進行・再発大腸がん・胃がんにおける薬物療法の変遷と近年の分子標的薬を中心とした新たな治療戦略について、最新の知見、臨床研究の動きを含め概説する。

- 担当：熊本大学がんプロコーディネーター 馬場 秀夫教授 (消化器外科学分野)
- 連絡窓口：医学事務チーム教務担当 坂口 (内線：5953)
- mail: iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp